



大学共同利用機関法人
人間文化研究機構



国立歴史民俗博物館
National Museum of Japanese History

人社系研究力評価のための 状況把握の可能性

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立歴史民俗博物館
後藤 真



本報告の課題意識

- 指摘されている人文学研究等について、いくつかの確認を
- 研究評価指標に関しては、1月の林先生のご報告など、議論は多くある
 - 人社系の研究成果の把握の難しさは指摘されている
 - また、いくつかの理由も指摘されている
- 少ないサンプルではあるが、まずは裏付けをとり、解決方法を模索するための材料として

人間文化研究機構の情報を一つの梃子として

- 人文系大学共同利用機関法人である人間文化研究機構のIRデータを材料に
- 人文系研究力評価データの特徴を考えるために

※分析用であり、数字は全て比率等で示したものの

※人間文化研究機構の評価に用いることができるデータにはなっていません

※数字は暫定的なものも用いています

人文機構が取得している情報

• 150を超える項目を収集（例）

- 共同研究の類型別実施件数
 - 共同研究の公募件数・比率
 - 共同研究の研究成果（論文件数）
 - 共同研究の研究成果（分担執筆件数）
 - 共同研究の研究成果（単著数）
 - 共同研究の研究成果（共著・編著の数）
 - 共同研究の研究成果（口頭発表等件数）
 - 共同研究の研究成果（論文型映像件数）
 - シンポジウム、講演会等の主催、共催回数
 - シンポジウム、講演会等の参加人数
 - シンポジウム、講演会等の後援、協力回数
 - その他公開した研究成果物（媒体別件数）
 - 個人による研究成果（論文件数）
 - 個人による研究成果（分担執筆件数）
 - 個人による研究成果（著書冊数）
 - 個人による研究成果（口頭発表等件数）
- 招待講演件数
 - 展示形態別実施回数
 - 展示形態別実施日数
 - 共同研究に基づいた展示形態別実施回数
 - 展示形態別入場者数
 - 展示図録の発行件数
 - データベースの構築件数
 - データベースの収録件数
 - データベースの利用件数
 - 科研費等政府系外部資金種目別応募件数
 - 科研費等政府系外部資金種目別採択件数
 - 科研費等政府系外部資金種目別採択金額
 - 受託研究の実施件数
 - 受託研究の実施金額
 - 民間等からの助成金の獲得件数・金額
 - 寄付金の獲得件数・金額
 - 受賞件数
 - 特許等知的財産出願及び権利化の件数
 - 機関属性（国公私民間等）別人数・割合
 - 女性研究者人数・割合
 - 若手研究者（35歳以下）人数・割合
 - 外国人研究者の人数・割合
 - 機関属性（国公私民間等）別機関数・割合
 - 専門分野別人数・割合
 - 機関属性（国公私民間等）別協定締結機関数
 - 協定締結機関との研究に関する専門分野
 - 総研大大学院生数

これ以外にもリポジトリの情報や国際連携状況・資料利用数なども

もちろん、多くの大学が取得していると思われるデータだが、これらから、分野の特性に沿ったデータを取り出すこともできるかもしれない
ただし、自己申告型であり、かつ「質」は見えない



大学共同利用機関法人
人間文化研究機構

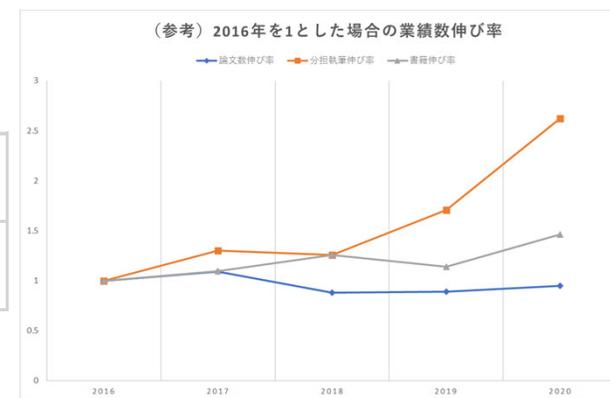


国立歴史民俗博物館
National Museum of Japanese History

Book Chapterの把握の重要性

- 人間文化研究機構における論文等業績のうち分担執筆の割合
 - 近年の傾向として分担執筆の率が上がる
 - ※分担執筆と著書のアウトプットが伸びていることが要因
(著書の数下記集計には含まれない)
- 全ての組織が同様とは思われないが、像をつかむためにはやはりBookをどのように考えるかは重要

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
分担執筆率	30.04%	33.95%	37.94%	45.11%	54.20%



SCOPUSによる論文等の捕捉率

- 機構のIRデータより論文数の抽出：SCOPUSのデータ（All areas）（機構内研究者のみ）
- 25%～30%強で推移
- 近年捕捉率があがっている可能性はあるが…検証・確認が必要→

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
SCOPUS論文捕捉率	24.09%	22.96%	34.62%	33.33%	30.43%

SCOPUSによる書籍等の捕捉率

- 機構のIRデータより分担執筆数の抽出：SCOPUSのデータ（機構内研究者のみ）
- 捕捉できてない、と言ってよい
- 論文については一定程度、見ることができる可能性があるが、書籍については、やはり厳しい

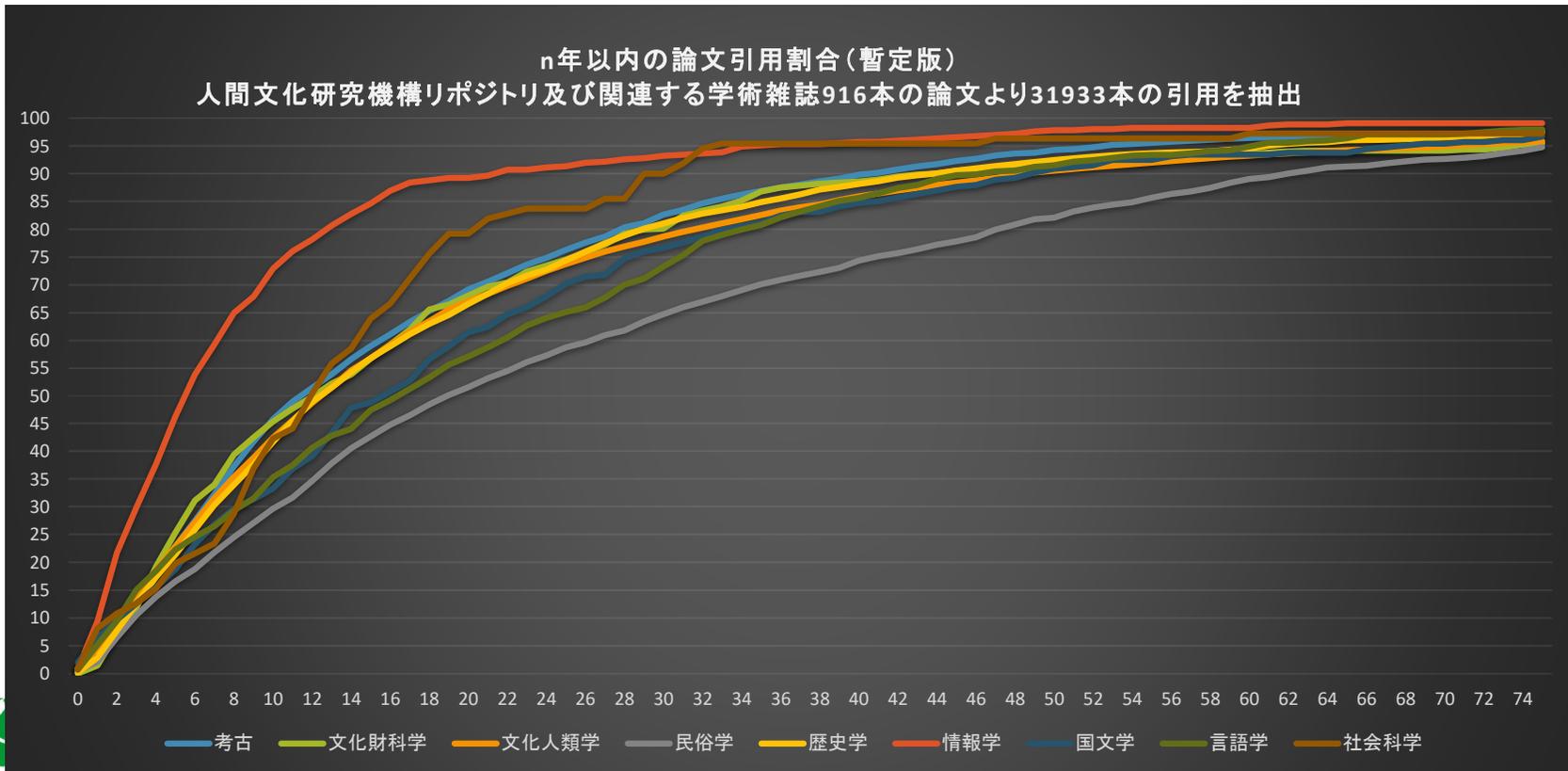
	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
SCOPUS著書捕捉率	3.44%	2.36%	5.38%	1.65%	1.96%

参考：後藤による過去の引用文献調査

- 人間文化研究機構のリポジトリ論文と、関連雑誌の引用をテキスト化
 - 引用先が雑誌論文と推定されるものを仮に抽出
 - 日本史 約35%
 - 日本文学 約35%
 - 文化人類学 約25%
 - 日本語学 約40%が雑誌論文（ただし、暫定値で数字が大きく変わる可能性はあります）
 - 引用される文献も著書の比率が高い
- ※著書で書き下ろしをして著書で文献引用をすると現状では一切見えない

参考 後藤による過去の論文の被引用期間の長さ調査

- 人文・社会系論文が引用される期間は長い⇨論文の「寿命」が長い
- (人間文化研究機構のリポジトリの現時点の集計によるかぎり) 情報学と、人文系論文では2倍ほど被引用のされ方が「遅い」 (暫定値)



指標として見ることができるデータはなにか？

- 本来は、利用目的に応じて指標を選ぶわけだが…実際には足りてないものばかり
- プロジェクトの進捗？
 - 目標値に対して一定の割合進んでいるか？（量的）
論文の量
 - 一定の評価を得ることができているか？（質的）
論文の質（引用率？）の上昇？
- 機関間比較？
 - 論文数比較？（量的／質的かつ数的）
論文の量 書籍の量 これに付随する引用など
 - ピアレビュー評価など（質的かつ記述的）
レビュアーの状況（多様性など）
- 強み探し？（弱点補強？）
 - アウトプット多様性 分野内特性（インプット多様性も）
アウトプット媒体の状況（媒体の多様性 媒体内部の多様性 例：iMD）
分野別情報 インプット多様性（e-CSTI?）

人文の中での詳細な

足りない情報は何か？

- 情報収集可能なデータソースはあるのか？
 - ある場合には、どこまでなら可能でどこからは困難か？
コスト的側面：○ 技術的側面：△ データの性質による面：×
 - ない場合には、新たに取得するエネルギーはどれぐらいになりそうか？
- 第三者データと、研究者自己申告
 - 自己申告データは
 - 網羅性が高い ほしい情報入手できる
 - × 入手コストがとにかく高い 不揃い 「見栄を張る」
 - 自己申告データ以外で取得する方法から考える必要性

再掲：人文機構が取得している情報

- 150を超える項目を収集（例）

- 共同研究の類型別実施件数
- 共同研究の公募件数・比率
- 共同研究の研究成果（論文件数）
- 共同研究の研究成果（分担執筆件数）
- 共同研究の研究成果（単著数）
- 共同研究の研究成果（共著・編著の数）
- 共同研究の研究成果（口頭発表等件数）
- 共同研究の研究成果（論文型映像件数）
- シンポジウム、講演会等の主催、共催回数
- シンポジウム、講演会等の参加人数
- シンポジウム、講演会等の後援、協力回数
- その他公開した研究成果物（媒体別件数）
- 個人による研究成果（論文件数）
- 個人による研究成果（分担執筆件数）
- 個人による研究成果（著書冊数）
- 個人による研究成果（口頭発表等件数）

招待講演件数
 展示形態別実施回数
 展示形態別実施日数
 共同研究に基づいた展示形態別実施回数
 展示形態別入場者数
 展示図録の発行件数
 データベースの構築件数
 データベースの収録件数
 データベースの利用件数
 科研費等政府系外部資金種目別応募件数
 科研費等政府系外部資金種目別採択件数
 科研費等政府系外部資金種目別採択金額
 受託研究の実施件数
 受託研究の実施金額
 民間等からの助成金の獲得件数・金額
 寄付金の獲得件数・金額
 受賞件数
 特許等知的財産出願及び権利化の件数
 機関属性（国公私民間等）別人数・割合
 女性研究者人数・割合
 若手研究者（35歳以下）人数・割合
 外国人研究者の人数・割合
 機関属性（国公私民間等）別機関数・割合
 専門分野別人数・割合
 機関属性（国公私民間等）別協定締結機関数
 協定締結機関との研究に関する専門分野
 総研大大学院生数

これ以外にもリポジトリの情報や
 国際連携状況・資料利用数なども

もちろん、多くの大学が取得していると
 思われるデータだが、これらから、
 分野の特性に沿ったデータを取り出す
 こともできるかもしれない
 ただし、自己申告型であり、かつ「質」は
 見えない



大学共同利用機関法人
 人間文化研究機構



国立歴史民俗博物館
 National Museum of Japanese History

データ取得のために（短期的課題として）

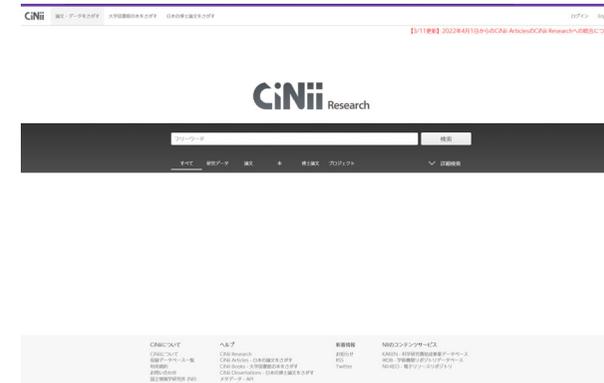
- まずは、現在公開でかつ取得できる第三者データを検討することから
 - Cinii (research, books)のデータや、JSTのデータなど
 - NDLデータ取得の可能性

書誌データを取れるものはある

- 「完全ではない」ことは絶対の前提として
- どのように不足で不正確なのかを知ることも重要

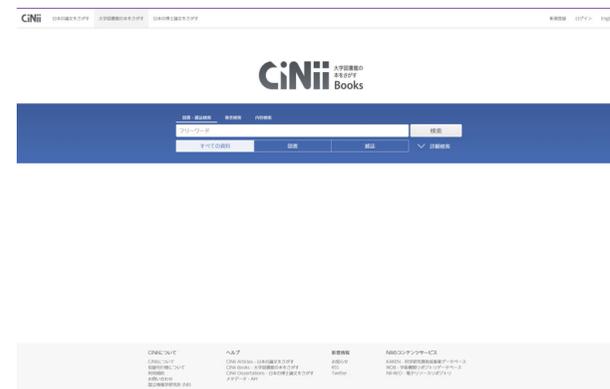
Cinii Research (令和4年4月よりCinii Articlesもこちらに統合)

- 論文書誌データを取得することは可能
- 人名・組織名等での紐づけ等に課題がある
- Cinii Researchの機能により関連情報とのリンクも??
- 引用の分析はできない



Cinii Booksから書籍の情報を取得？

- 書籍書誌データを取得することは可能→一定程度のスクリーニングを経た書籍の情報が取得できる NDLのデータとつなげられれば、ある部分の書籍は分担執筆データも？
- 人名・組織名等での紐づけ等に課題がある
- 「研究書」の範囲確定ができない
 - Cinii Researchであれば科研費の成果書籍情報は電子も含め取得できるが…
 - 自己申告データと捕捉率の問題が残る
- 引用の分析はできない



J-Stageによる日本の論文情報取得

- J-stage上の書誌情報詳細取得が可能
- 引用分析が可能
- 範囲が限られる
- 書籍は当然分析できない



The screenshot shows the J-STAGE website interface. At the top, there are navigation links for '資料・記事を探す', 'J-STAGEについて', 'ニュース&PR', and 'サポート'. Below the navigation bar, the search results for the paper '「地域資料情報継承記録モデル」の構築と課題' are displayed. The authors listed are 堀井 美里, 小川 歩美, 堀井 洋, 高橋 和孝, 野坂 晃平, 川邊 咲子, and 後藤 真. The paper is from the journal '地域資料情報継承記録 / 31 巻 (2021) 4 号 / 書誌'. The DOI is 'https://doi.org/10.2964/jsik_2021_061'. On the right side, there are options to download the PDF in various formats (RIS, BibTeX, etc.). Below the main content, there is a '抄録' (Abstract) section and a '引用文献 (3)' (References) section with three entries.



インプット・プロセスの側から見る可能性も

- もちろん、科研費等（e-CSTI等）
- プロセスの側としては、共同研究プロセスの多様性等を検討するなども重要か
- ただし、個人研究が多いといわれる人社で見えるかは未知数



データ取得のために（未来）

- 研究データプラットフォームの構築の重要性
 - 理想としては、引用情報も取得する
- F1000（日本では筑波大学ゲートウェイが先鞭）などの例も
- 多様な研究情報の取得→人文系の研究の「振る舞い」を意識しつつ
- 研究の向上に資するためのデータ、あるいは人社研究の良さを可視化するデータとはどのようなものかの議論を踏まえ、多様な指標を準備することが求められる



人社研究の「良さ」を可視化するために

- 捕捉できていない情報 – とりわけ書籍の問題への対応が重要
- 「完全ではない」ことを前提に傾向をどれだけ把握できるか
- 研究力評価には課題も多いが適切なデータ化はやはり必要
 - 今、進めている各機関の研究を「見せていく」ためのデータや情報は求められる
 - 「何が分かってないのか分かってない」状態からの脱却のためにも
 - 「道具」として使えるものを考える